

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	旭コークス工業株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市港区善進本町184番地の1
工場等の名称	旭コークス工業株式会社 荒子川工場
工場等の所在地	名古屋市港区善進本町184番地の1
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	鋳物用石炭加工品 加炭材 活性炭 その他炭素製品の製造販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月30日 ～ 令和6年10月28日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 旭コークス工業株式会社 荒子川工場
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-381-2111		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

事業活動のあらゆる分野において 環境対策 省エネルギー対策に努め 持続発展可能な社会
作りに積極的に取り組みます

①継続的な改善

温暖化対策

中長期の具体的改善策を立てると共に、確実に実行し令和3年度を基準とし
令和6年には原単位当たりのCO2排出量を3%削減します。
また、得られた結果に 速やかに対応、更なる改善をめざし温暖化ガスの発生を
抑制し続けます。

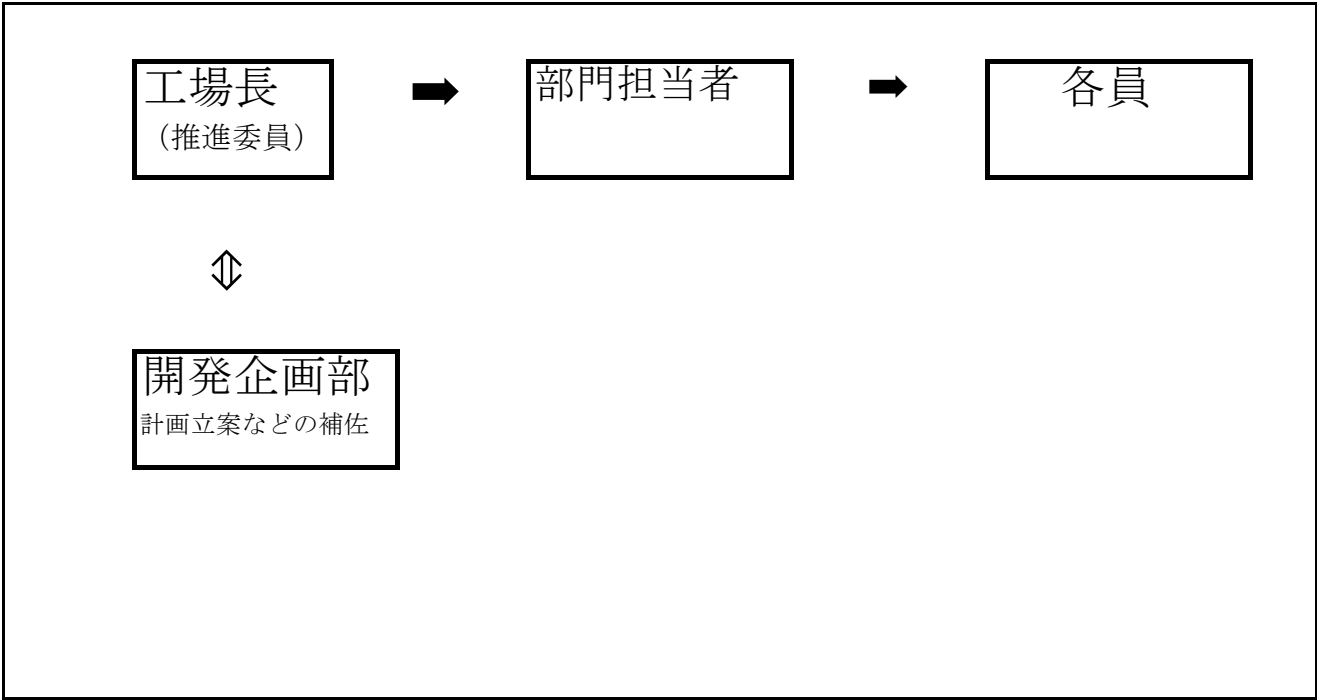
②省エネルギーの追求

現行生産ラインの見直しを図るとともに、回収エネルギーの有効利用と設備の
改修改善を実施します。

③温暖化対策への全員の参加

全社員が環境保全への意識を持ち、行動ができるようにします。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,066	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,066	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの排出量	86.26	t-CO ₂ / 千トン	83.67	t-CO ₂ / 千トン	88.46	t-CO ₂ / 千トン	85.65	t-CO ₂ / 千トン	
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 2.6	%	0.7	%	
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / 千トン		t-CO ₂ / 千トン	
削減率（対 基準年度）						%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

本年度は夜間蒸気乾燥設備の設置・及び運転が開始したため、集計期間中の一部で乾燥炉の稼働が夜間にシフトし、重油の消費量の削減に成功しました。ただ本年度も前年対比で約9%ほど出荷量が減少しており、その為に加熱炉の維持燃料の割合が増したため、本年度1%の削減目標には届きませんでした。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践	①使用していない機器の元電源を切る。 ②廃熱ボイラーで回収した蒸気の有効利用。 ③冷却水 水量適量化。		実施継続中
省エネルギー・省資源の実践	各生産設備の運転基準・保守基準の最適化 保守点検記録の明確化。		実施継続中
省エネルギー・省資源の実践	機器の購入・更新に際して省エネルギー性能を考慮のうえ選定する。		実施継続中。 取り組み例として旧型5.5kwエアコンを最新3.7kw省エネエアコンへ2台更新。
省エネルギー・省資源の実践	照明機器の省エネ化「LED化」促進		常時使用灯の完全LED化を達成済。残りの利用頻度の少ない電灯は随時LED化を行う。
省エネルギー・省資源の実践	夜間の余剰蒸気の利用(未使用エネルギーの有効利用) 原料石炭の乾燥を夜間に行えるようにプラントの改良を行う。 (付帯装置の追加、ライン変更)		夜間乾燥プラントは完成。本格運転開始。現状は運転に際しての様々な問題を拾い出し、改修を行っている。
省エネルギー・省資源の実践	B加熱炉の稼働効率増加による重油使用原単位の低減		取組み中止中
自動車等輸送に関する対策	可能な限り公共交通機関を利用し自動車の利用を控える 急発進急加速を控えエコドライブを実践する 不要のものを積載したまま走行しない		実施継続中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
H22年度	事前乾燥（振動流動乾燥装置）	Aキルン用原料2トン/h
H22年度	事前乾燥（流動乾燥装置）	熱間成形用原料3トン/h
H24年度	攪拌式振動流動乾燥装置	SC No. 2 石炭の乾燥3トン/h R2年より改造。効率アップ

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

夜間乾燥プラントは完成。本格運転開始した。現状は運転に際しての様々な問題を拾い出し、改修を行っている。来年度は年間を通しての安定運転を行い燃料消費量の削減を執り行いたい。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

フォークリフトなどの輸送機の点検整備の実施。
